

— 社会福祉法人 桐和会 —

特別養護老人ホーム

タムスさくらの杜 市川

〒272-0013 市川市高谷3-1-1

☎047-314-8303 FAX.047-314-8304



- 居室数
100床全室ユニット型個室
- アクセス
東京メトロ東西線 原木中山駅徒歩10分



施設長 櫻井 武志氏

グループ病院と連携でケア 市川住民の交流拠点にも

体調に異変を来しても、すぐ医療・リハビリ機関に診てもらえて安心できる。そんな特別養護老人ホーム「タムスさくらの杜市川」が4月1日、市川市高谷に開所する。首都圏に計約60の病院・福祉施設を擁する医療法人社団桐和会（岡本和久理事長）tums(タムス)グループの運営だからこそ可能な「自己完結型ケア」で、入所者や地域から「来て、任せて、在って、よかった」と言われる特養を目指す。

入所者ケアを 桐和会で完結

「連携力」。さくらの杜市川の運営に取り入れられる「桐和会グループならではのノウハウ」といふ問いに、櫻井武志施設長（44）から即座にこの言葉が返ってきた。

東京メトロ東西線原木中山駅から南へ直線距離約600m、徒歩約10分。低層住宅やマンションの合間に畑や雑木林が点在するエリアに、さくらの杜市川は完成した。

桐和会tumsグループ（※1）の特養運営は千葉県では初となる。駆け付けられる距離にあるグループ施設として、タムス市川リハビリテーション病院（車で25分）▽タムス浦安病院（同20分）▽東京さくら病院（同15分）がある。この他の施設とも必要に応じて連動、入所者ケア

をグループ内で「完結」できる体制を整えている。例えば、特養で骨折

↓病院↓介護老人健康施設でも自立支援と言わずに、スタッフが代わりに何でもやってしまいがち。その方が早いからです。そうでなく、入所者ができることを探す、が介護です。「植木の上を食べる男性の介護を担当し、問題行動として対応しました。ある日ご家族に聞く」と、男性は農業に従事し、土を口に含んで耕作地の地味を確かめる習慣があった。知っていれば違う対応ができた、と考えさせられました。入所者への理解が足りないか『問題行動』で片付けてしまおうのでは？ 介護には聞くこと、観察力、洞察力が求められます」

求められるのは 「入所者への理解」

定員100床、すべて個室の「ユニット型」。チームワークによるアプローチを基本に据えながら、入所者10人をユニット（生活単位）として専任介護スタッフが付き、健康に目を配る。安易に紙おむつや下剤を使わず、自然な排泄を目指す自立支援も特色の一つ。現場から多くを学んだ

という櫻井施設長は人材育成を重視する。「自分のできることは自分で、との思いは入所者も同じ。でも自立支援と言わずに、スタッフが代わりに何でもやってしまいがち。その方が早いからです。そうでなく、入所者ができることを探す、が介護です」

「植木の上を食べる男性の介護を担当し、問題行動として対応しました。ある日ご家族に聞く」と、男性は農業に従事し、土を口に含んで耕作地の地味を確かめる習慣があった。知っていれば違う対応ができた、と考えさせられました。入所者への理解が足りないか『問題行動』で片付けてしまおうのでは？ 介護には聞くこと、観察力、洞察力が求められます」

櫻井施設長の介護経験と哲学がスタッフに受け継がれ、「さくらの杜市川の介護」になる。

「発信型施設」が 地域の核に

「特養でありながら地域包括支援センター（※2）のような、周辺地域の核となって入所者と地域住民双方に効用をもたらす施設に」というのが運営ビジョン。自宅に戻ることが容易でない要介護者を入居対象とする特養は、内に閉じられたイメージが拭えない。だ

「来てよかった 任せてよかった 在ってよかった」と言っていただけの特養。櫻井施設長考案のキーワードが、入居者のため試行錯誤を重ねるスタッフの意気込みを象徴する。

東京さくら病院

診療科目
内科
リハビリテーション科
精神科
緩和ケア内科

タムスさくらの杜 市川



タムス浦安病院 タムス市川リハビリテーション病院

診療科目
リハビリテーション科
内科
整形外科
ペインクリニック内科
ペインクリニック外科

診療科目
内科
リハビリテーション科
緩和ケア科
精神科
耳鼻咽喉科

※1・東京都江戸川区と埼玉県川口市を中心に、クリニック24、病院4、特養11、介護老人保健施設2、病児保育室4など計62施設を運営（2月1日現在、4月新設予定分含む）
※2・高齢者が住み慣れた場所で暮らせるよう、介護や医療生活支援などのサービスを提供する仕組みの中核機関。市町村の依頼で、社会福祉法人や民間企業などが運営する



▲入居者同士のコミュニケーションを育む共同生活室